

環境研究総合推進費令和 7 年度事後評価個票

研究課題番号	5-2205
研究課題名	作用・構造や曝露プロファイルの類似性に基づく複数化学物質の生態リスク評価手法の開発
研究実施期間	2022 年度～2024 年度
研究代表機関名	国立環境研究所
研究代表者名	山本 裕史

1．評価結果

評価ランク：A

2．委員の指摘及び提言概要

本研究は化学物質の複合曝露時の影響評価について、相互作用を考慮した生態リスク評価手法を確立するための基盤的な知見を得るために実施され、目標以上の成果を上げている。金属曝露に関しては、生物利用性にかかわる溶存有機物濃度の推定モデルを整備したことは、今後の金属の生態リスク評価を進める上でデータ不足を補足する重要な補足手法となる。環境省が作成予定の「複合化学物質の環境リスク評価に係るガイダンス」への事例提供など、この研究成果の活用法について行政との議論を期待する。なお、環境データの不足や不確実性に起因する評価精度の限界が見られるので、これらの改善を期待する。